

景 気 動 向 調 査

(第 165 回)

2012 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2012 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力のもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。尚、東日本大震災の影響により、2011年1月～3月期実績及び4月～6月期予測の調査については実施しておりません。

記

1. 実施時期 2012年5月下旬～2012年6月上旬
2. 調査対象期間 2012年4月～6月期実績
 2012年7月～9月期予測
3. 調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先 岩手県内企業 400社
5. 回答数 170通（回答率 42.50 %）
 <内訳> 製造業 57社 建設業 35社 卸・小売業 78社
6. 調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2012年4～6月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 1.7 と前期(1～3月期) 13.3 に比較し、15.0 ポイント下降している。7～9月期の景況感自体は回復の見込みであるが、売上高・収益や資金繰り等は低下する見通しであり、回復基調に変化が見られる。

D I (景気動向指数) 推移

全業種ベース	4～6月期実績	7～9月期見通し
景況感	1.7	1.7
売上高・出荷高	17.1	1.2
収益	0.0	13.7
販売価格	1.8	1.2
仕入価格	26.6	20.3
資金繰り	1.2	9.4

国内経済は、東日本大震災からの復興やエコカー補助金が追い風になり、自動車生産が好調なほか、消費・雇用も底堅く全体的に緩やかに持ち直している。復興需要は湾岸や道路復旧工事等の公共投資が中心だが、その影響により雇用や個人消費の回復につながる循環を作り始めている。

また設備投資については、消費増税の影響を考慮して前倒しの意識が強まっている。東日本大震災の被災地ではセメントや生コンクリートの需要が急増しており、原料に供給不安が見られる。

岩手県内経済は、復興需要といわてD C や平泉の世界遺産登録の経済効果を受け着実に回復歩調をたどっている。建設関連に加え、不動産や運輸も改善を示している。製造業は加工業種に一部で悪化もあったが全体では横ばい、非製造業は復興需要が波及して改善された。

一方、需要急増の反動や過当競争による収益圧迫等の懸念も広がり始めている。
<参考>

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 153 回	09年1～3月	92.7
2	第 152 回	08年10～12月	91.3
3	第 124 回	01年10～12月	91.2
4	第 109 回	98年1～3月	90.6
5	第 111 回	98年7～9月	90.0

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について

全体のD Iは、 1.7となっている。

各業種別のD Iをみると、製造業が 26.3、建設業が31.4、卸・小売業が1.3である。7~9月期見通しでは、製造業が3.2ポイント、建設業が14.4ポイントであり若干上向き、卸・小売業は1.3ポイントと下向く見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では17.1となっている。業種別では、製造業が5.3、建設業が40.0、卸・小売業が15.4である。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は1.7、卸・小売業の仕入高は13.0となっている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫は10.7、卸・小売業の商品在庫は0.1となっている。

(4) 収益

D Iは、全体では0.0となっている。業種別では、製造業が3.5、建設業が20.0、卸・小売業が6.5である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は1.8、仕入価格は26.6となっている。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は27.2%となっている。

業種別では、製造業が31.6%、建設業が22.9%、卸・小売業が26.0%である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「経営の多角化」が3位となっている。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では1.2となっている。業種別では、製造業が7.1、建設業が2.8、卸・小売業が1.3である。

5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「過当競争」、「収益不振」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 建設業以外の業種の景況実績は、下向き感が強まる ～

[4～6月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、**全業種**では「良い」と答えた企業が32.4%（前期42.0%）、「悪い」が34.1%（同28.7%）で、DIは△1.7（同13.3）と、15.0ポイント下向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、**製造業**が△26.3（同△20.3）、**建設業**が31.4（同25.6）、**卸・小売業**が1.3（同29.4）となっている。建設業は上向いているが、卸・小売業は28.1ポイント下向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、**全業種**では「良くなる」とみる企業が34.5%、「悪くなる」が32.8%であることから、DIは1.7となり、4～6月期実績と比較すると上向き見通しとなっている。

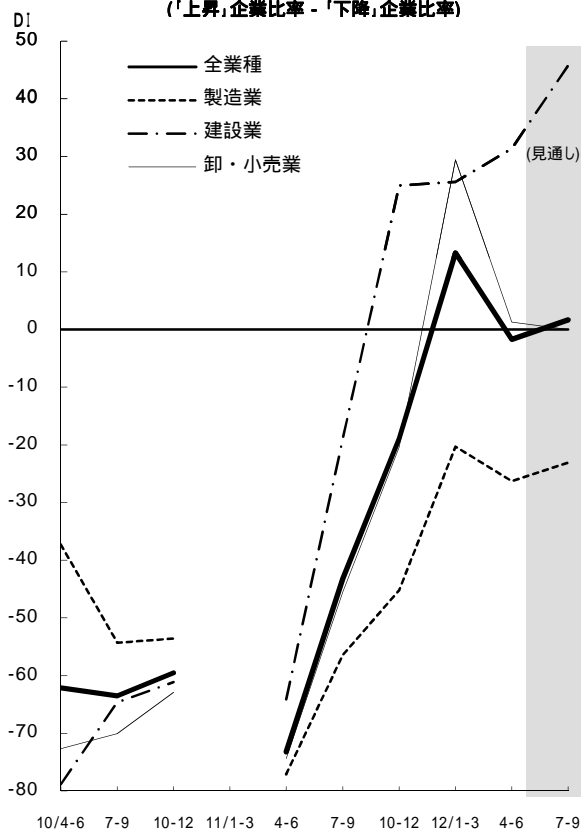
業種別にみると、**製造業**が△23.1、**建設業**が45.8、**卸・小売業**が0.0となっているが、建設業については、更に上向き見通しとなっている。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	2.4	30.0	33.5	26.5	7.6	-1.7
	7～9月 (見通し)	1.8	32.7	32.7	27.4	5.4	1.7
(製造業)	4～6月 (実績)	5.3	12.3	38.5	35.1	8.8	-26.3
	7～9月 (見通し)	3.6	17.9	33.9	37.5	7.1	-23.1
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	48.6	34.2	8.6	8.6	31.4
	7～9月 (見通し)	2.9	54.3	31.4	11.4	0.0	45.8
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.3	34.6	29.5	28.2	6.4	1.3
	7～9月 (見通し)	0.0	33.8	32.4	27.3	6.5	0.0

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 実績は下向きに転じ、見通しも下向き方向 ～

【4～6月期の実績】 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が50.0%(前期64.5%)、「減少」が32.9%(同22.3%)となり、D Iは17.1(同19.0)と1.9ポイント下降し、下向きに転じた。

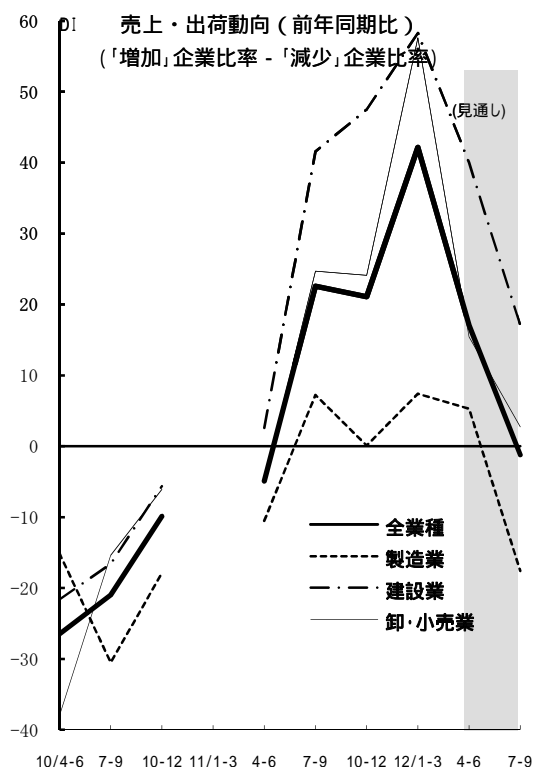
業種別にD Iをみると、**製造業** 5.3(前期7.4)、**建設業** 40.0(同58.3)、**卸・小売業**15.4(同57.6)となっており、全業種で下向いている。

【7～9月期の見通し】 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が34.7%、「減少」が35.9%であることから、D Iは△1.2で、4～6月期実績と比較して下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、**製造業**で△17.6、**建設業**で17.1、**卸・小売業**で2.7となっており、4～6月期実績と比較して全業種とも下向く見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	18.2	31.8	17.1	23.5	9.4	17.1
	7～9月 (見通し)	5.4	29.3	29.4	29.3	6.6	-1.2
(製造業)	4～6月 (実績)	21.1	22.8	17.5	24.6	14.0	5.3
	7～9月 (見通し)	7.0	15.8	36.8	31.6	8.8	-17.6
(建設業)	4～6月 (実績)	8.6	51.4	20.0	17.1	2.9	40.0
	7～9月 (見通し)	0.0	40.0	37.1	20.0	2.9	17.1
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	20.5	29.5	15.4	25.6	9.0	15.4
	7～9月 (見通し)	6.7	34.7	19.9	32.0	6.7	2.7



(2) 生産高または仕入高

～ 卸・小売業は実績・見通しとも下向き ～

〔4～6月期の実績〕 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が35.7%（前期46.3%）、「減少」が34.0%（同35.2%）で、D Iは1.7（同11.1）と下向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は45.5%（前期64.3%）、「減少」が32.5%（同15.4%）で、D Iは13.0（同48.9）と35.9ポイント下向いている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が28.5%、「減少」が32.2%であることから、D Iは△3.7で、4～6月期実績と比較して5.4ポイント下向き見通しとなっている。

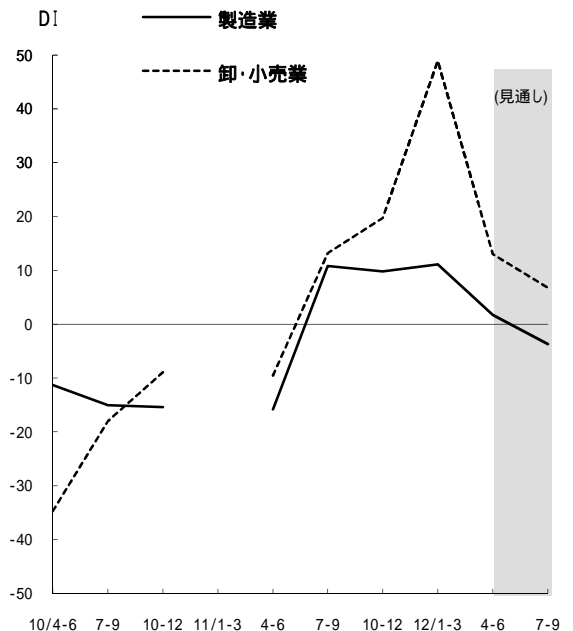
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が41.4%、「減少」が34.6%であることから、D Iは6.8となり、4～6月期実績と比較して6.2ポイント下向き見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I
(製造業)	4～6月 (実績)	21.4	14.3	30.3	30.4	3.6	1.7
	7～9月 (見通し)	7.1	21.4	39.3	30.4	1.8	-3.7
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	19.5	26.0	22.0	27.3	5.2	13.0
	7～9月 (見通し)	6.7	34.7	24.0	29.3	5.3	6.8

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製品在庫見通しは各業種で不足感が強まる傾向 ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は17.9%（前期18.5%）、「減少」が28.6%（同33.3%）であることから、D Iは△10.7（同△14.8）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が9.1%（同14.3%）、「適正」が70.9%（同77.6%）、「不足」が20.0%（同8.1%）である。

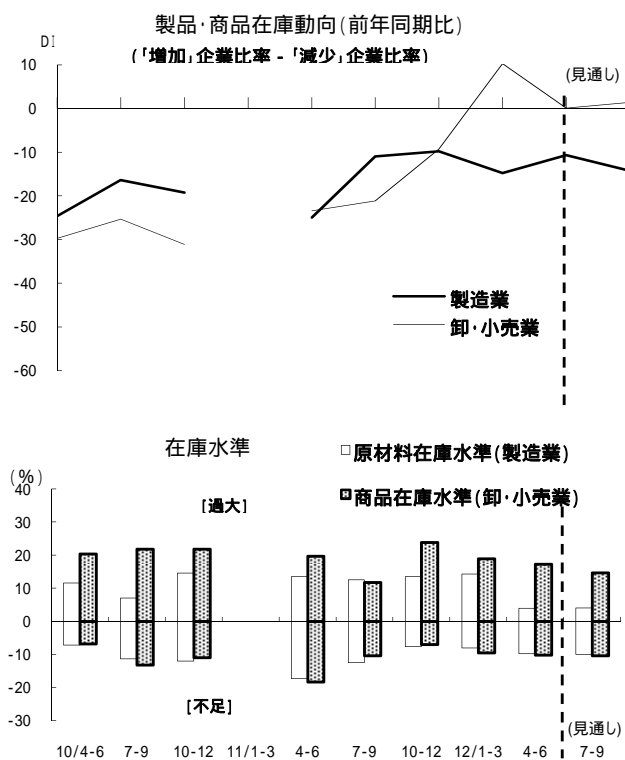
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が23.3%（前期26.9%）、「減少」は23.2%（同16.6%）であることから、D Iは0.1（同10.3）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が17.3%（同18.9%）、「適正」が72.6%（同71.6%）、「不足」が10.1%（同9.5%）である。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が10.7%、「減少」が25.0%で、D Iは△14.3となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が7.5%、「適正」が75.5%、「不足」が17.0%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が19.5%、「減少」が18.1%であることから、D Iは1.4となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が14.7%、「適正」が75.0%、「不足」が10.3%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		期					D I	
		増加	やや増	不変	やや減	減少		
		（%）						
（製造業）	4～6月 （実績）	5.4	12.5	53.5	26.8	1.8	-10.7	
	7～9月 （見通し）	3.6	7.1	64.3	23.2	1.8	-14.3	
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	9.6	13.7	53.5	20.5	2.7	0.1	
	7～9月 （見通し）	2.8	16.7	62.4	16.7	1.4	1.4	



(4) 収 益

～ 各業種とも下向き見通しが強まる ～

〔4～6月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が36.3%（前期50.9%）、「減少」が36.3%（同26.8%）であり、D Iは0.0（同24.1）となり24.1ポイント下向いている。

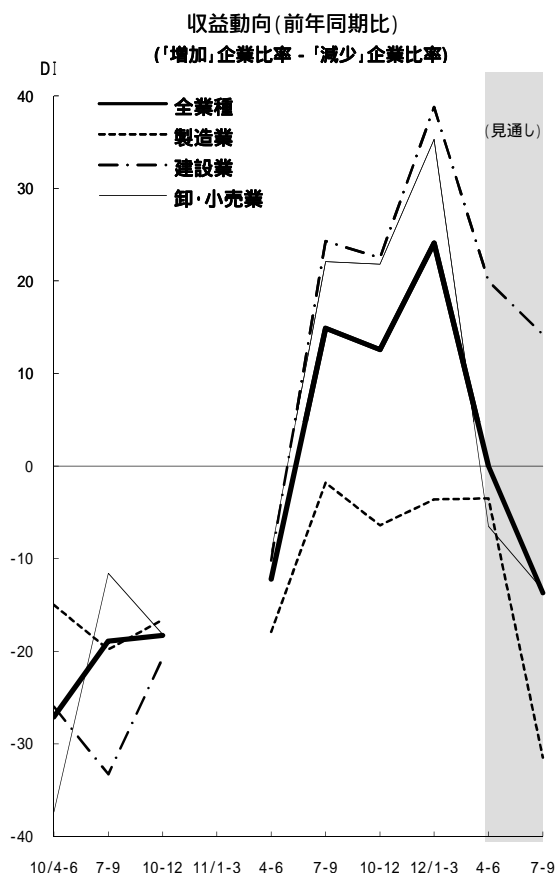
業種別にD Iをみると、**製造業**△3.5（前期△3.6）、**建設業** 20.0（同38.8）、**卸・小売業** 6.5（同35.3）と、卸・小売業の下向きが顕著である。
いる。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が24.6%、「減少」とみる企業が38.3%であることから、D Iは△13.7で、4～6月期実績と比較して13.7ポイント下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、**製造業** 31.5、**建設業**14.2、**卸・小売業**13.4で、4～6月期実績と比較して、各業種とも下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	7.7	28.6	27.4	25.0	11.3	0.0
	7～9月 (見通し)	1.2	23.4	37.1	29.3	9.0	-13.7
(製造業)	4～6月 (実績)	5.4	28.6	28.5	21.4	16.1	-3.5
	7～9月 (見通し)	1.8	14.0	36.9	36.8	10.5	-31.5
(建設業)	4～6月 (実績)	5.7	34.3	40.0	14.3	5.7	20.0
	7～9月 (見通し)	0.0	31.4	51.4	14.3	2.9	14.2
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	10.4	26.0	20.7	32.5	10.4	-6.5
	7～9月 (見通し)	1.3	26.7	30.6	30.7	10.7	-13.4



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売・仕入価格とも下降を見込む～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が17.2%（前期16.7%）、「低下」が15.4%（同15.0%）であることから、DIは1.8（同1.7）と僅かに上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が37.9%（前期42.5%）、「低下」が11.3%（同4.6%）であることから、DIは26.6（同37.9）と下向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が15.6%、「低下」とみる企業が14.4%であることから、DIは1.2で、4～6月期実績と比較して下向く見通しとなっている。

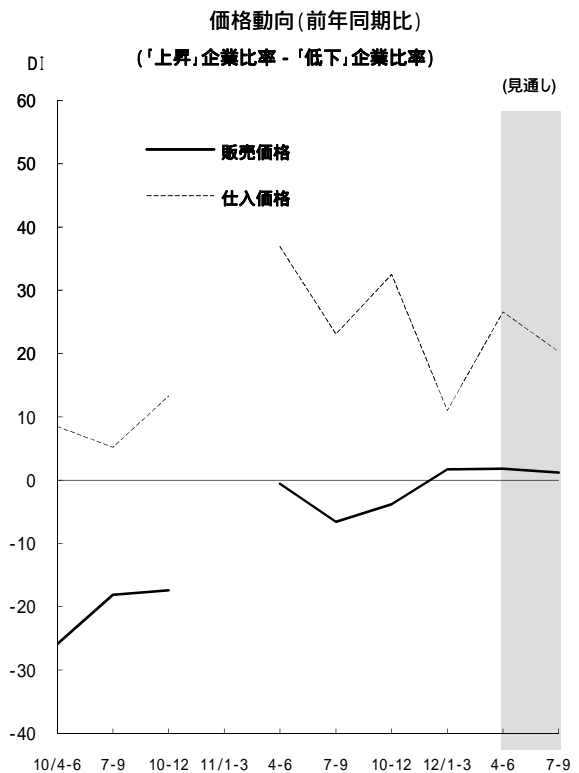
仕入価格については、「上昇」とみる企業が31.1%、「低下」とみる企業が10.8%であることからDIは20.3となり、4～6月期実績と比較して仕入価格は下降する見込みである。

販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	2.4	14.8	67.4	13.0	2.4	1.8
	7～9月 (見通し)	1.2	14.4	70.0	10.8	3.6	1.2

仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	3.6	34.3	50.8	10.1	1.2	26.6
	7～9月 (見通し)	1.8	29.3	58.1	9.6	1.2	20.3



3. 設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 実績は上向くが、見通しは下向く予想 ～

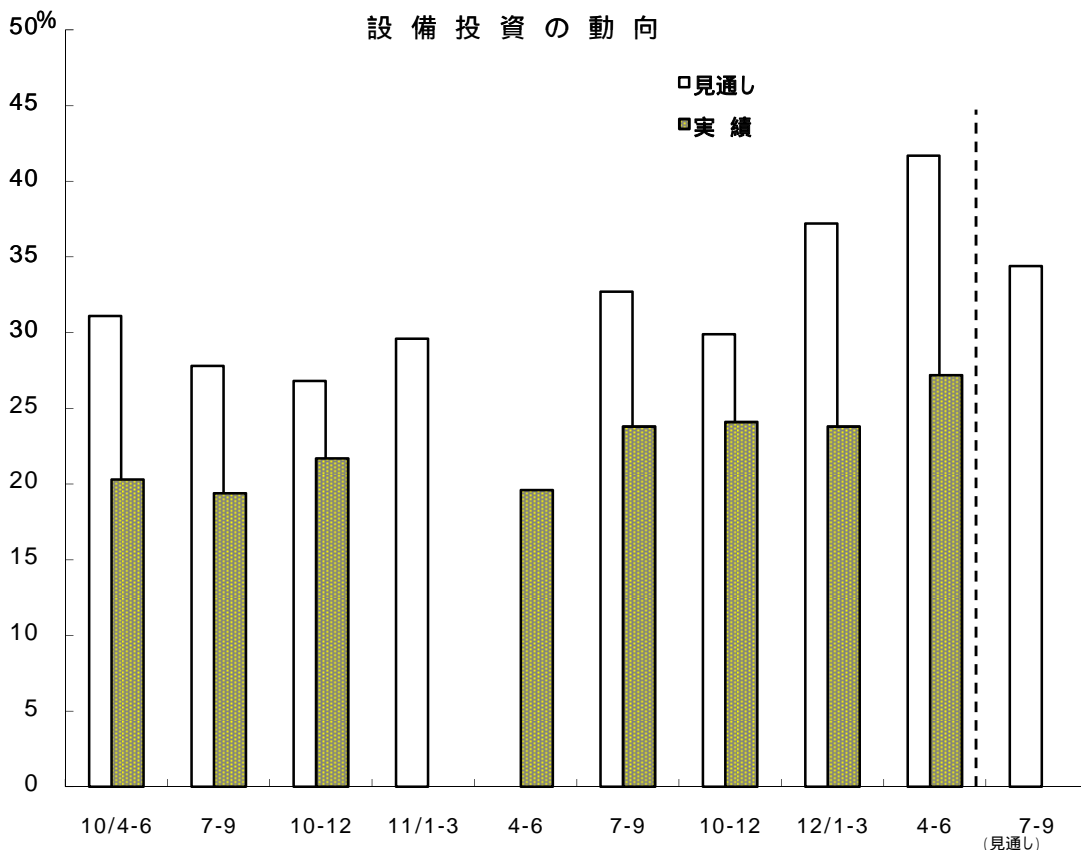
[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は27.2%（前期23.8%）と上向いている。

これを業種別にみると、製造業31.6%（前期25.0%）、卸・小売業26.0%（同16.7%）建設業22.9%（同16.7%）であり、全業種で上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で21.7%（前期24.1%）、「計画はあるが具体化していない」は12.7%（同17.6%）、「計画はない」は65.6%（同58.3%）であった。

「計画あり」は合計34.4%（同41.7%）と前期予想を下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で36.9%（前期40.4%）、建設業で29.4%（同37.1%）、卸・小売業で34.7%（同44.6%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

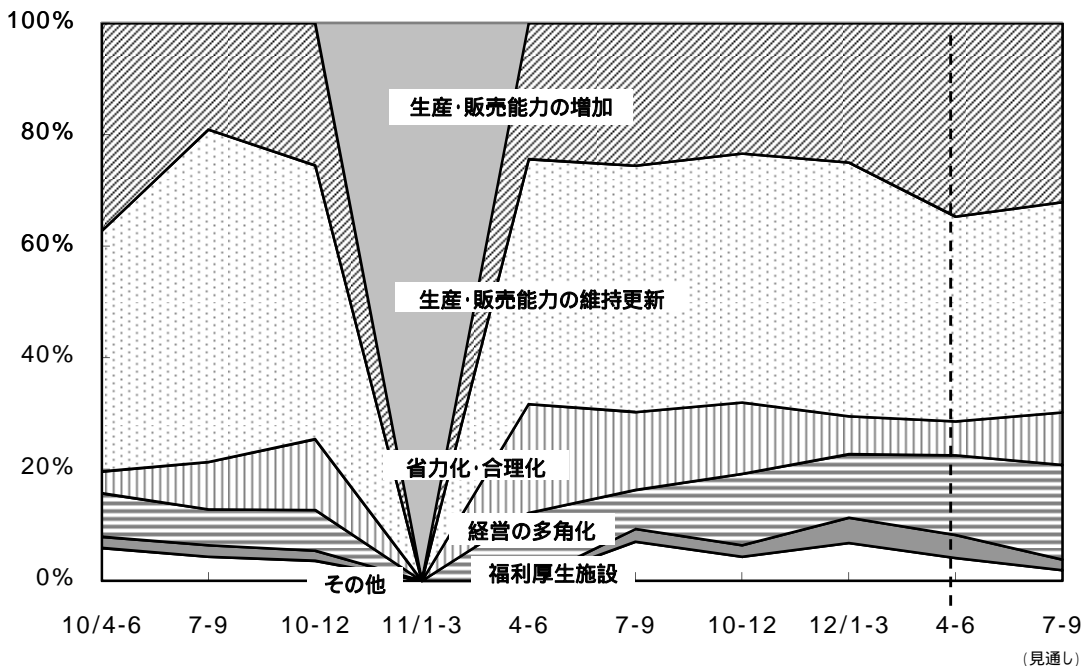
[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(27.2%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が36.7%（前期45.5%）でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が34.7%（同25.0%）で2位、「経営の多角化」が14.3%（同11.4%）で3位となっている。

業種別にみると、製造業で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」と「生産・販売能力の維持更新」が同率1位。建設業では「経営の多角化」が同率1位となったことが、今回の特徴である。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(34.4%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が37.7%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」32.1%、「経営の多角化」17.0%の順となっている。

業種別では、建設業と卸・小売業では「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、製造業では「生産・販売能力の増加」がトップである。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 資金繰りの見通しは下向き傾向強まる ～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が19.6%(前期26.3%)、「苦しくなった」が20.8%(同19.4%)であることから、D Iは 1.2(同6.9)と下向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 7.1(前期3.6)、建設業が2.8(同5.5)、卸・小売業は1.3(同9.5)と全業種が下向いている。

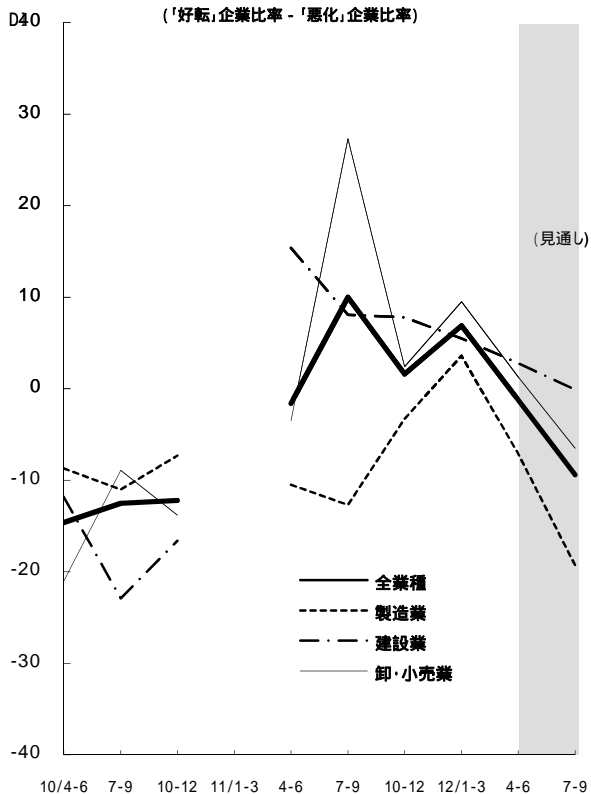
[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が10.1%、「苦しくなる」が19.5%で、D Iは 9.4となり、4～6月期実績と比較して、更に下向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 19.3、建設業 0.1、卸・小売業 6.5となっており、6～7月期実績と比較して、全業種で下向き見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	4～6月 (実績)	3.0	16.6	59.6	17.2	3.6	-1.2	
	7～9月 (見通し)	2.4	7.7	70.4	14.8	4.7	-9.4	
(製造業)	4～6月 (実績)	1.8	17.5	54.3	21.1	5.3	-7.1	
	7～9月 (見通し)	5.3	3.5	63.1	22.8	5.3	-19.3	
(建設業)	4～6月 (実績)	5.7	11.4	68.6	14.3	0.0	2.8	
	7～9月 (見通し)	0.0	11.4	77.1	8.6	2.9	-0.1	
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	2.6	18.2	59.7	15.6	3.9	1.3	
	7～9月 (見通し)	1.3	9.1	72.7	11.7	5.2	-6.5	

資金繰り動向(前期比)
(「好転,企業比率」-「悪化,企業比率」)



(2) 現金・預金

〔4～6月期の実績〕 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が21.7%（前期31.4%）、「減少した」が30.0%（同25.7%）であることから、DIは 8.3（同5.7）と下向いている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が11.9%、「減少する」が31.4%であることから、DIは 19.5（前期 3.5）と大きく下向く見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

〔4～6月期の実績〕 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が15.1%（前期18.9%）、「減少した」が36.7%（同32.6%）であることから、DIは 21.6（同 13.7）と大きく下向いた。

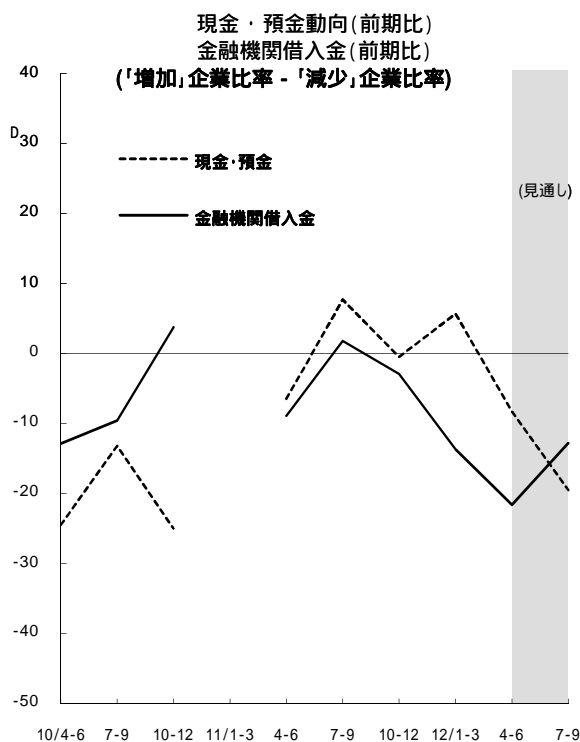
〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が14.0%、「減少する」が26.8%であることから、DIは 12.8（前期 21.0）と上向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	2.9	18.8	48.3	22.9	7.1	-8.3
	7～9月 (見通し)	2.4	9.5	56.7	24.3	7.1	-19.5

金融機関借入金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	1.2	13.9	48.2	28.9	7.8	-21.6
	7～9月 (見通し)	1.8	12.2	59.2	23.8	3.0	-12.8



(4) 販売代金回収期間

[4~6月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が5.3%(前期9.1%)、「長くなった」が7.1%(同9.2%)であることから、DIは1.8(同0.1)となった。また、87.6%(同81.7%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が2.4%、「長くなる」が7.1%であることから、DIは4.7(前期2.3)となる。また、90.5%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[4~6月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が3.0%(前期5.7%)、「短くなった」が4.1%(同3.4%)であることから、DIは1.1(同2.3)となった。また、92.9%(同90.9%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.4%、「短くなる」が3.0%であることから、DIは0.6(前期1.1)となる。また、94.6%の企業は「変わらない」とみている。

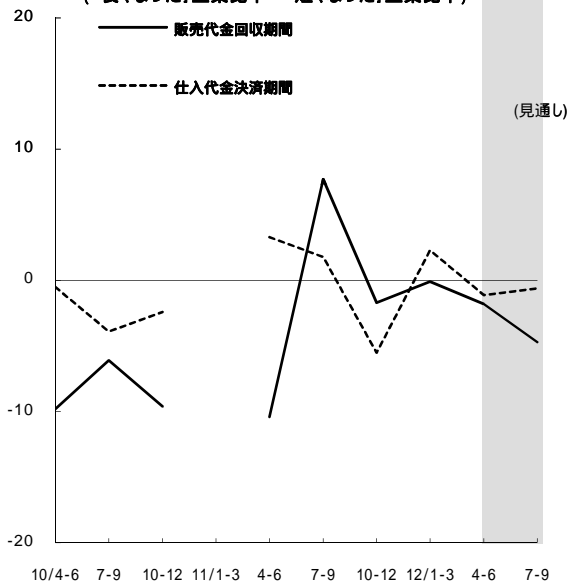
販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4~6月 (実績)	1.2	4.1	87.6	7.1	0.0	-1.8
	7~9月 (見通し)	0.6	1.8	90.5	5.9	1.2	-4.7

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4~6月 (実績)	1.2	1.8	92.9	4.1	0.0	-1.1
	7~9月 (見通し)	0.6	1.8	94.6	2.4	0.6	-0.6

販売代金回収期間動向(前期比)
('短くなった'企業比率 - '長くなった'企業比率)
仕入代金決済期間動向(前期比)
('長くなった'企業比率 - '短くなった'企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 「過当競争」が経営上の問題の上位に ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」19.9%（前期20.7%）、「過当競争」17.6%（同15.1%）、「収益不振」14.1%（同11.4%）、「収益不振」が前回の4位から3位に上昇している。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」24.3%（同22.7%）トップとなり、「原材料・仕入価格高」16.8%、「収益不振」11.2%の順となっている。建設業では「過当競争」27.0%（同15.9%）がトップとなり、「収益不振」15.9%、「売上・受注不振」14.3%の順となっており、過当競争が顕著になっている。卸・小売業では「過当競争」20.4%（20.3%）、「収益不振」15.9%、「売上・受注不振」14.3%、「人手不足」14.3%の順となっている。

